

商業施設の空き店舗を利用した健康増進啓発活動の報告と今後の展開 ～Keep Habilitation in Shunan!～

Report and Future Outlook of the Health-Promoting Educational Activities Using the Vacant Store in the Commercial Facility : Keep Habilitation in Shunan!

○打道 京子¹⁾, 二見 信次¹⁾, 万田 祥秀¹⁾, 岩崎 しのぶ¹⁾

1) 医療法人社団生和会周南リハビリテーション病院

【背景と目的】

周南市では、平成 26 年度から、地域包括ケアシステムの構築に向けて、「地域の通いの場づくり」が進められており、当院も平成 28 年から継続してセラピストの派遣を行っている。平成 29 年には、院内に「地域活動支援委員会」を立ち上げ、地域包括支援センター主催の介護予防カフェ等にも積極的に参加してきた。平成 30 年 9 月、「商業施設内の空き店舗を利用した健康増進啓発活動」の実施について、地域包括支援センターに提案、その後市役所、社会福祉協議会、地元の大学等から協力者を得て、「地域のみんなで安心と生きがいを創り（作り）出す」という理念のもと「Keep Habilitation in Shunan! 実行委員会」を立ち上げた。①地域住民の「自助」「互助」の意識を高める、②地域住民の心と体の健康を維持できるような働きかけを行う、③地域住民と共に安心・生きがいを感じることができる「環境」「場所」「サービスをつくる」を目的としたなかで、転倒予防指導士として転倒・介護予防の啓発活動を行った。

【実践内容】

イオンタウンが毎月 15 日開催する G.G 感謝デーに合わせて、空き店舗にて健康増進啓発イベントを開催していく。内容は、機器を用いた各種評価・測定、健康相談等を主とし、誰でも気軽に立ち寄ることができる場所づくりを目指している。初回となった平成 31 年 3 月 15 日開催のイベントでは、InBody を用いた体成分の測定・評価、LHR-100 を用いたロコモ度チェック、トレーニング紹介、相談対応を行った。

【結果と課題および今後の展開】

94 名の参加者に、計測結果をもとに健康指導をすることができた。今後、①居場所としての機能②保健室としての機能を持った、③出会いの場としての機能を持つべきであると考えている。そのためにも、地域住民、地域企業、地域の諸機関・諸施設と繋がり、それらを相互に繋げていく機能を持つことが必要である。しかし、前述の①、②の機能を備えるには、サービス提供体制、協力機関との交渉等、課題が多く存在する。また、イベントでの活動や住民運営通いの場等への参加により、地域住民の健康に対する意識が高まった後の、次の段階を担う「場所」作りについても考える必要があると考える。そのためには、「繋ぐ」という機能を發揮できるよう、対応できる協力機関等と新たな取り組みについて話し合っていかなければならない。

【倫理的配慮】

本研究は人または動物を対象とした研究であり、倫理委員会の承認を得ている。

【COI】

本研究は利益相反に関係しない。